

## マイケル デイヴィッド シャピロ ロシア出身の元ユダヤ教徒

:

明:

彼のムスリムとの出会いと数々の宗教 によって、マイケルは 宗教の中から最 的にイスラ ムを びま  
す。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 男性](#)

より: マイケル デイヴィッド シャピロ

日 07 Jul 2014

集日 06 Jul 2014



は民族的にはユダヤ系ロシア人です。 の探求は19 のときに始まりました。 はサイエン  
トロジ によって わされた (そう、 は洗 されていました) を しているところでした。

の神への信仰は不定なものでした。の人生の目は、ロックスタになることでした。はカリフォルニア州パサデナのアパートに住みつつ、秘書官をしていました。おかしいでしょう？

ある、がキッチンに向かおうとすると、浅い肌の男と出会いました。彼にこうねたのをえています。「今夜、このウォッカを冷に入れててもいいかな？」たちは握手し、は眠りにつきました。その、の人生は急激に化したのです。

この浅い肌の男はムスリムで、が出会った最初のムスリムでした。彼にとっても味を持ったは、彼の信仰について色々と会をしました。一日五回の礼ってどんなことをするんだ？とは？ムハンマドってなんだ？

たちの会はずいぶん、ウェドというキリスト教徒のルームメイトを伴っていました。たちは3人で「ユダヤ教徒、キリスト教徒、ムスリムのセッション」をけました。そこでたちは多くの相点と共通点をしました。

の味はセックスドラッグパーティから、大かりな真探求にシフトしました。それは、が完遂しなければならない探求でした。それはつまり神の探求であり、いかに神にうかについてのものでした。

は真探求において、こう自しました。「じゃあまずはなことから始めよう。神は何人いるんだろうか？」は唯一であることにしました。数の分割された神は、唯一の神よりも弱い。なぜならそれらの神々がお互いに合意しなければ、争とが生じるはずだから。唯一の神がのでした。

神の存在の可能性について心をいたは、次に神者と有神者の信仰を分析してみることにしました。を者にけさせたのは、「すべてのには者がいる」という引用でした。そのことを念に入れ、やがては神の存在を信するまでに至りました。その理由は言では明出来ませんが、ただそう感じるようになったのです。

この新の は、造主に わなければならぬという 任感を伴ったものでした。宗教界が の次の 拓分野でした。

それから は自 しました。「どこから始めるべきだろうか？」そこには文字通り数千もの宗教があるのです。それらをふるいにかけて、いくつかの候 に らなければなりません。それを 成するにはどうすれば良いのか。 の をこういう声がよぎりました。「その中から一神教のものを探せばいいんだ。」「そうだった。 は唯一の神を信じているんだった。」

ようし。これで多神教である 教、ヒンズ 教が けた。一神教のカテゴリに当てはまる主要な宗教は、ユダヤ教、キリスト教、イスラ ムでした。 はユダヤ系だから、まずはユダヤ教から して ることにしました。唯一の神、 言者、十戒、ト ラ 、ユダヤの魂…何だって？「ユダヤの魂」？

べていくうちに、この概念が の注意をひきました。こういう があります。「人がユダヤ人として生まれたのなら、その人物にはユダヤの魂が宿っており、彼らは皆ユダヤ教に わなければならぬ。」ちょっと待てよ…それは差 じゃないのか？そんなのは普遍的なものではないだろう。

ということは、神はユダヤの魂、クリスチャンの魂、ムスリムの魂、ヒンズ の魂を っているのだろうか？人は皆、平等に られたのではなかったのだろうか？人には生まれたときから宗教が割り当てられているのなら、神の定めによってそれに 留まり けなければならぬのだろうか…たとえその宗教が本物ではないと信じたとしても？ ううむ…それには同意しかねるな。

を困らせたもう一つの は、ユダヤ教には 格な地 の概念がないことでした。それなら、どうして善人である必要があるのでしょうか？ 罪から ざかる必要性は？しい への恐怖心がなければ、道 的に振舞う意味などあるのでしょうか。

はキリスト教に を めました。唯一の神、父、子、精 …もう一度…唯一の神、父、子、精 。えっと、 明して下さい。それら全部がどうして唯一の神たりえるのか？  $1+1+1=3$  でしょう？ では、なぜ唯一の神を信じるなどと主 することが出来るのか？

明に次ぐ 明、数式に次ぐ数式、比 に次ぐ比 、 推に次ぐ 推をもってしても、私はこの概念をうまく理解することが出来ませんでした。まあ、もうちょっと べてみようか。

次の主な教 。それは、イエスは我々の罪のために死んだのであり、それは我々が「原罪」を抱える墮落した存在だからというものです。そのため、「神の子」であるイエスキリストは、人々を地 から救うため、そしてアダムによって我々に受け がれた罪をすために されなければならなかったというものです。

ということは、我々は罪人として生まれてきたというのでしょうか？

罪を犯すということは、 ったことをするというのでしょうか？

なら、一 の赤ん坊は、何らかの不正によって罪深いのでしょうか？

それは何かの いでしょう。ある一人の人物の行 によって、全人 は被害を被らなければならぬと言うのでしょうか？ その における 理とは一体何なののでしょうか？

たった一人の逸脱者がいれば、グル プ全体を するというのでしょうか？

なぜ神がそのような まりを作るのでしょうか？ それは 理的ではないことです。

イエスは「人 を するあまり」死んだといます。ちょっと待ってください。バイブルでは、イエスが「父よ、なぜ私をお てになったのですか？」と言っています。つまり、イエスはなぜ残酷な され方をしなければならなかったのかを、自分では分かっていなかったことになります。しかし、彼は「 んで」 牲になったことにされています。いずれにせよ、私はこうした信仰を受け入れることが出来ませんでした。では次の宗教に行きましょう。

イスラ ムは「神への服 」を意味します。主な信条は次のとおりです。唯一の神、一日に五回の礼 、余 から年 2.5%の喜 、ラマダ ン月の断食（神へとお近付きになるため、そして人生に感 するため等の理由）、 的に可能であれば、一生に一度マッカへ巡礼をす

ること。ここまでは、何も理解に苦しむものはないですね。

ここには、理に反するものは一切ありません。クルアーンは、味深い奇の数々や、を超越した英知に溢れています。近年になりされた多くの科学的事が、この物のなかに1400年以上も前からされています。

イスラームはとりあえず、私の必要条件を合格しました。私はもっと核心に迫る疑を解消したいと思いました。この宗教は普遍的なものなのか？

その基本的な信条は、推や数式なしでもにでも理解出来るものです。それは科学と一致するのでしょうか？

クルアーンにおける数々のは、近代科学テクノロジーと合意しています。

が数えきれない程の理的事を精し、とを重ねた果、一つのことが最も注意を引きました。それはこの宗教の名称である「イスラーム」です。はそれがクルアーンの中で、何度も言及されているのに付きました。

以前のについて思い出すと、旧から「ユダヤ教」というや、新から「キリスト教」というを一度すらも目にしなかったことに付きました。これはにとって大きなことでした。なぜ、それらには、自身の宗教の名前がされていなかったのでしょうか？

それらには名前がなかったのです。はユダヤ教が「ユダヤ教」、キリスト教が「キリスト教」であることに付きました。

ユダヤ、あるいはユダとは、だったのでしょうか？

彼は、神が人に教えを示したときのヘブライ人の族でした。つまり、この宗教はこの人物の名に由来しているのです。それでは、キリストがだったのかてみましょう。彼は、神の教えをユダヤ人にえた人物でした。この宗教も、一人の人物の名に由来しているのです。

これらの宗教の名称は、人名に「教」が付いたものです。その事にもわらず、それらの宗教の名称は、その典のなかでは言及されていないのです。はそのことがとても奇妙であると感じました。

もしも が をして、 「何々をご 入されませんか? 」と言ったとすれば、 「その何々の商品名は何ですか? 」という が来るのは当然でしょう。商品に名前が ければ、その を期待することは出来ません。

名称は、物理的であれ非物理的であれ、人が物を するにあたって根本的な役割を果たします。もしも宗教が地球上の全人 に まり、人々によって 践されるのであれば、それに名称があつて然るべきではないでしょうか?

さらに言えば、その名称は神ご自身から与えられるべきものではないでしょうか? それが の したい点なのです。 「キリスト教」や「ユダヤ教」といった名称は、 典のなかには されていません。神ではなく、人 がそう名付けたのです。神が人 への宗教を定めながら、それに名称を与えないといった概念は、 にとって到底受け入れることの出来ないことです。

その 点で、最低でも の 点からは、キリスト教とユダヤ教は、 理的 包括的な宗教としての 信 性を失いました。

それらの宗教のなかで、イスラ ムは 典内に名称が言及された唯一の宗教です。このことは にとって めて大きなことです。

その 点で、 はイスラ ムに うことを めました。そして はムスリムとなったのです。 は真を知りました。そして暗 から けだしたのです。 は光明の中に出てきたのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/1427>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。